

歯茎は寿命の摂理なり 46

今こそ口腔ケア

新型コロナウイルスが猛威をふるい、自粛や休校、在宅ワークなどで日常が大きく変わりましたね。

当院のように都心の歯科医院は自宅から遠い患者さんが大半ですので、在宅ワークになったから、電車に乗るのはちよつと怖い、ということでも来院を控える患者さんもおられました。

また「歯科医院は新型コロナウイルスの感染リスクが高い」などという報道も出ましたので通院そのものも怖いと思つた方もいたことでしょう。訪問診療についても「歯科は来ないで欲しい」と言われたお話も多々聞きました。

本当に歯科医院は感染のリスクが高いのでしょうか。この報道のもととなった図は、職業別感染リスクを「人との物理的な距離」と「病気や感染症と接する頻度」から割り出しています。歯科医師や歯科衛生士は日々「病気（むし歯や歯周病も細菌感染症です）に接し、その病人（症状は問わない）と極めて近い距離」で仕事をしていますから、この理屈で言うと「感染リスクが高い」になってしまいます。

私たちが「感染した人と多く接することと現実的に「感染する」ことは違

います。もしそうなら日本中で多くの歯科医師や歯科衛生士が感染しているはずですが、実際にそんなことはありません。

スタンダードプリコーション（全ての患者さんに適用する標準感染予防策）——感染症は新型コロナだけではありません。肝炎、インフルエンザ、ノロ、はしか等々、私たちの周りには感染を引き起こす可能性のあるウイルスや細菌がたくさんあります。

歯科医療では多くの場合患者さんの唾液や血液に触れますので、新型コロナに関係なく、それ以前からほとんどの歯科医院では「元々適切な感染予防策を標準的に行っている」のです。そのうえで、さらに新型コロナウィルスの対策もしっかりと行っています。

歯科医院は「患者さんが感染しやすい」場所ではないのです。

こんな状況に歯科離れとなつてしまった患者さんやご家族、施設の方々のお気持ちを理解しつつも、私は歯科医師として患者さんの口腔環境の悪化を心配していました。なぜならば、歯科疾患で放っておいて治るものではなく、口腔状態の善し悪しが健康状態や生活のクオリティに直結するからです。

文 井上玲奈

text by Rena Inoue

最近急に歯磨きが新型コロナウイルスにも良い、といった報道も出てきていますが、次回はその辺を掘り下げていきます。



Profile

日本大学歯学部卒業
2004年 レナデンタルクリニック開設
2008年 癒しと希望のデンタルサロン、レナ・レスポールを併設
「一人お一人の美と健康を生涯にわたってサポートする」ために日々診療に当たっています
「日本睡眠学会会員」「日本睡眠歯科学会会員」
レナデンタルクリニック
〒104-0061 東京都中央区銀座7-11-11 長谷川ビル2F
TEL: 03-3573-8148